

作文の下書き

【内容】作文の下書きにICTを活用する

【使用アプリ】ロイロノート

【事例紹介】

○2年生の国語科「こんなもの、見つけたよ」

初めて原稿用紙に文章を書く単元である。

組み立てをプリントに考えた後、ロイロノートを活用し、縦書きで文章を作成し提出させた。その後、教師が縦の文字数を調整し、直すところを書き込み、プリントに印刷して返却。それを見ながら児童が元の文章を直す。直したものを印刷して、それを見ながら最後に手書きで作文用紙に書いた。



手書き入力で、
ロイロノートに
下書きしています。

直したものを
見ながら作文用紙
に書いています。



【終わりに】

作文を書くときには推敲の作業が不可欠である。しかし、誤字・脱字があったり、2年生は「丸、点、かぎ」などの原稿用紙の使い方を初めて学習したりするため、直す部分が多くなってしまふ。そこで、ICTを活用することで、途中で文字を入れるなどの推敲が容易にできた。

文字の入力については、手書き入力を行った。入力に時間がかかったのが課題である。ローマ字入力の練習は、4月から行っているため、学年末には全員がローマ字入力をできることを目指したい。

☆教育委員会指導主事より☆

今回の報告では、作文の推敲部分のみに ICT 機器を活用し、書く活動は手書きで行っています。夏季 ICT 研修会での実践事例発表にもありましたが、この事例も書く力の育成を明確に目標に定め、その推敲部分のみに ICT を活用したベストミックスの一例です。教師が手直したものを紙媒体で受け取ることで、児童は清書もしやすかったのではないのでしょうか。授業の中のどこをデジタルで、どこをアナログで行うかの判断基準は、どの方法がもっとも授業のねらいに迫れるのかになります。ローマ字入力へのチャレンジ、頑張ってください。